

KOBELCO

TrueBlue KOBELCO
Evolution
Creating value, building a future and
changing the world

コベルコ建機株式会社
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104
<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2015

コベルコ建機株式会社



コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

藤岡 純

トップメッセージ

中期経営計画による体質強化

2013-2015年度の中期経営計画では、事業の安定と成長を目指し、

- ① 環境変化に強い事業体への変貌
- ② 欧米事業再参入によるコベルコブランド価値の最大化
- ③ ストック事業強化による収益構造の多様化

を基本方針として、種々の課題に取り組んでいます。

2014年度の建設機械市場は、マクロの景況感では、世界最大市場の中国をはじめ新興国が政治や経済面での脆弱さを露呈し低迷した一方、日米欧など先進国市場は比較的堅調に推移しました。実際の市場環境は中期経営計画で想定した状況とは異なりましたが、中期で取り組んでいる①と③に係るさまざまな施策が、計画の道半ばながら効力を発揮し収益の安定化に寄与して、2014年度も期初の予算に近い収益をあげることができました。

環境変化に強い事業体に向けて

2015年度は、国内は堅調な建設投資に加え、東京オリンピックに向けて都市リノベーションが活発化していること、また、北米においては経済の活性化や潜在工事量の豊富さから、先進国市場では底堅い需要が見込まれます。一方、世界の過半の需要を占めるようになった新興国ですが、市場としてのポテンシャルは高いものの、低迷から脱却する糸口が未だ見えず、急回復は難しいと予想しています。よって、世界市場全体での本格的な回復にはしばらく時間を要すると思われるだけでなく、特に新興国市場の不透明感から、我われを取り巻く事業環境は今年度も緊張局面が続くと考えざるを得ません。こうした環境下ですが、2015年度末には中期計画を完遂して、企業として環境変化へのロバスト性をさらに高めたいと思っています。

基本方針の①と③が効果を発揮する中で、残る②の欧米事業再参入とそれによるグローバル市場でのブランド価値最大化についても、欧米両市場ともに好調裡に再スタートができました。また、中期計画の前倒しで事業成立性の検討を行ってきた北米への生産拠点を進出についても、2014年末に実行を決断。市場ニーズへの対応力強化、グループ全体での最適生産体制構築といった狙いで、サウスカロライナ州のスパータンバーグ郡に北米生産工場を建設します。本格的な生産は2016年年初からです。欧米市場へ再参入し、足場固めが順調に進んでいることで、コベルコ建機グループのグローバル市場での存在感は徐々に高まっていますが、まだ確固たる存在感というには力不足です。2015年以降は新型モデルを世界に向け順次投入する計画です。環境や安全に配慮した社会にやさしい“期待の新商品”をドライブングフォースに、コベルコのブランドイメージをさらに高め、環境変化に強い事業体へ前進していきます。

社会から必要とされる企業づくりへ向けて

コベルコ建機グループは、日々の活動を通じて社会へ新たな価値を提供し、その価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。CSR活動の開始当初は、会社周辺の清掃活動などの限定的な活動でしたが、コツコツ続けることで活動の輪が徐々に広がり、今では国内各地域で開催されるイベントへの参加や、戦略レンタル会社による拠点周辺の清掃活動や交通安全指導、海外では現地法人による学校支援や交流なども実施しています。グループの事業規模が大きくなるに従って幅も広がっていますが、社内外でCSR活動の価値が受け入れられるようになり、良い刺激になっていることが背景にあると思っています。

一方で、社会とともに成長することも必要です。コベルコ建機グループは人材育成・研修を充実させていますが、会社風土はこうした研修や経済活動から醸成されるものです。その上で、CSR活動を通じて学ぶことも多く、また、活動から新しく生まれるものもあり、社会とともに成長するためのキーのひとつになっていると考えます。CSR活動が、コベルコ建機グループの会社風土を構築する一翼を担うことを期待しています。また、経営方針を軸とした活動もCSR活動方針に則った活動も、同じ方向を向いた事業活動と考えています。これからも社会へ新たな価値を提供し続け、社会から必要とされる企業づくりを行っていきます。2015年度もコベルコ建機グループらしい活動にご期待ください。

コベルコ建機グループの概要

●会社概要

会社名	コベルコ建機株式会社
英文社名	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
創立	1999年(平成11年)10月1日
事業所所在地	☐ 東京本社 〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 TEL:03-5789-2111 ☐ 広島本社(広島事業所) 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 TEL:082-943-5321 ☐ 大垣事業所 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 TEL:0584-89-3104
URL	http://www.kobelco-kenki.co.jp
資本金	160億円
代表者	代表取締役社長 藤岡 純(ふじおか じゅん)
事業内容	建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
従業員数	1,156名(グループトータル6,419名)[2015年4月1日現在]
売上高	3,110億円(連結)[2014年度]

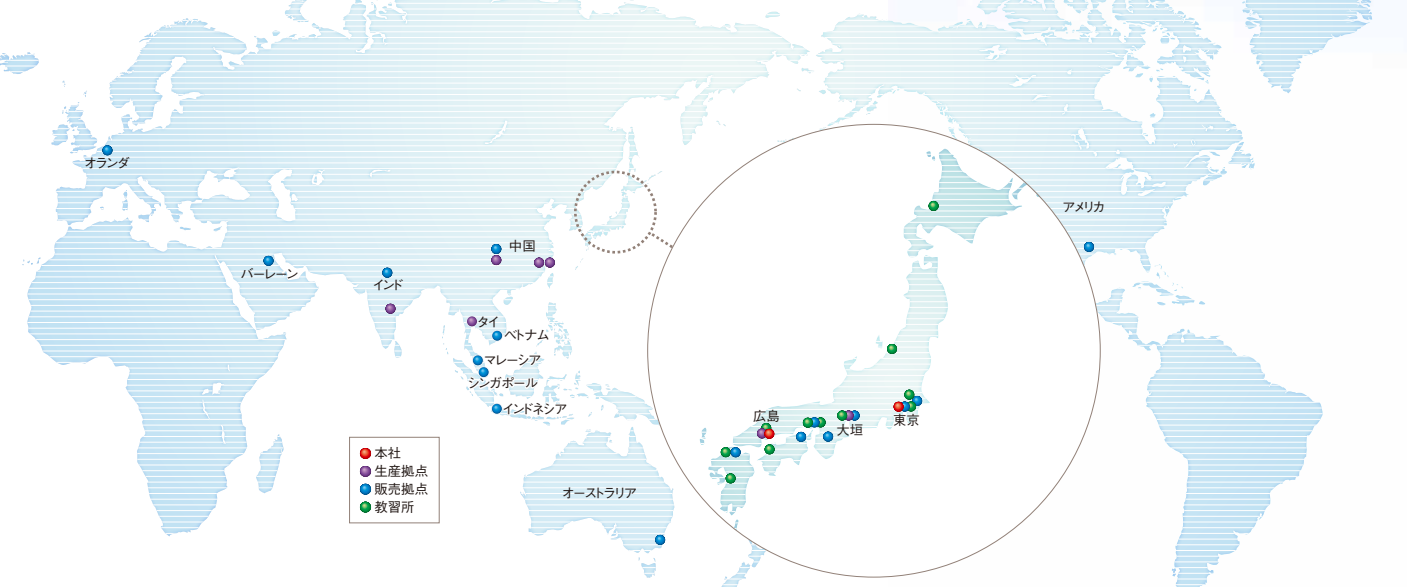
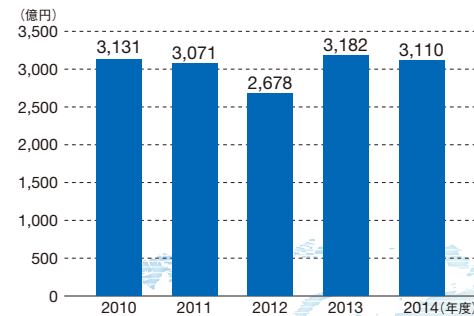
●国内の主な関係会社

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)、コベルコ建機エンジニアリング(株)、ユタニサービスサプライ(株)、コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)、コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)、トーヨースグウエ(株)、(株)ササイ、(株)ワイズヨシハラ、(株)常南

●海外の主な関係会社

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(米国)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.(オランダ)
 成都神鋼工程机械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
 成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
 神鋼建機精密機械(杭州)有限公司(中国)
 THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD.(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO.,PTE.LTD.(シンガポール)
 RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
 PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN.BHD.(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)

●売上高の推移(連結)



CONTENTS

- 01 ● トップメッセージ
- 02 ● コベルコ建機グループの概要
- 03 ● コベルコ建機グループの経営とCSR
企業理念／中期経営方針と戦略／CSR活動
- 05 ● これまでの活動実績と今後の展開
- 07 ● 特集
時代をリードする環境性能
- 09 ● 2014年度
企業活動・CSR活動ハイライト
- 11 ● 環境保全活動報告
環境マネジメント／環境数値
- 13 ● 社会・地域活動報告
活動理念／継続的活動／コベルコ建機グループへの広がり
- 15 ● ステークホルダーとの関わり
お客さま・関係企業との調和／職場づくり・人づくり
- 17 ● コンプライアンス／コーポレートガバナンス
- 18 ● 社員メッセージ／編集後記

●報告書の対象に関して

- 【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、グループ関連企業を対象としています。
- 【対象期間】 2014年4月1日～2015年3月31日
(一部2015年4月1日以降の情報を含む)
- 【報告書発行】 2015年5月

コベルコ建機グループの経営とCSR

コベルコ建機グループは、日々の企業活動を通じて、社会に価値を提供し、価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。



企業理念

経営理念

当社は、『ユーザー現場主義』に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで、顧客の満足以外に、豊かな社会の建設に貢献する。

経営ビジョン

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な“知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。このお客様価値の最大化活動を通じて、私たちは持続的成長を実現し、グローバルトップブランドを目指します。

行動指針

当社にとって、顧客の満足以外に社会に貢献することが経営理念とするならば、我々全ての行動はこの理念に沿うものでなければならない。

- (1) シンプル
社会における使命と役割を充分認識し、是々非々を明らかにした公明でシンプルな行動をめざす。
- (2) スピード
日々独創性と感性の研鑽に努め、顧客と時代の要請にスピードをもった的確な対応をめざす。
- (3) オープン
互いの人格と個性を尊重するとともに公正を旨とし、オープンで活気あふれる自由闊達な社風の醸成をめざす。

中期経営方針と戦略

中期経営方針

- いかなる事業環境変化にも追従できる強靱な事業体への変貌を遂げる
- 欧米への事業再参入を遂行し、全世界でのコベルコブランド価値を最大化させる
- 一定シェアを獲得できているエリアは、収益重視の戦略を行い収益最大化を図る

中期経営計画基本戦略

- バランスの良い強靱な事業体への変貌と人材基盤の強化による収益最大化
- 欧米市場への事業再参入と全世界での強固なグローバルブランド確立
- ものづくりは、増産・生産拠点拡充などから、内製化・差別化など技術の深掘りへ転換
- 安定的に収益を確保できる事業基盤（フロー⇒ストック）の確立

CSR活動

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、人と地球にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針に従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

CSR活動方針

- コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々と共存に努めます。
- コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

グループ環境管理基本方針

基本方針:『グループ環境経営の実践による企業価値向上』

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- (1) 環境に配慮した開発・生産活動
- (2) 製品・サービスでの環境への貢献
- (3) 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

- Message 1 コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。
- Message 2 コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々と共存に努めています。
- Message 3 コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

行動規準の基本方針

行動指針に則り行動するための細則として定め、当社グループ全体のものがこの規準を遵守しなければならない。

- (1) 私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規準を含む社内諸規程を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- (2) 私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。

- (3) 私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- (4) 私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- (5) 私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。



「Blue」は当社ショベルのカラーを連想し、「True Blue」の意味するオリジナルな、信頼できる、正直な「KOBELCO」が、グローバルに「Evolution」進化、発展していくことを宣言するもの。サブタイトルは、価値を作り、未来を作り、世界を変えていくとした。

これまでの活動実績と今後の展開

コベルコ建機グループは、社会のニーズに応え、貢献することを企業の使命と考えています。より良い製品を世に送り出すことはもちろん、CSR活動にも注力し、社会が抱える多くの課題に対する問題解決に取り組んでいます。



取り組みテーマ	これまでの活動実績	今後の展開
 地球温暖化対策 ⇒ 環境保全活動(P11)	低燃費を追求したハイブリッドショベルの販売を強化 2012年より販売を開始した20tクラスハイブリッドショベルSK200H-9は、旋回制動時の運動エネルギーを電気に変えて蓄電し、動力のアシストに利用することで燃料使用量を抑え、二酸化炭素排出量を大幅に削減できる省エネ性能に優れた油圧ショベルです。年間1,000時間稼働した場合、同クラスの標準型油圧ショベル(SK200-9)と比較して、二酸化炭素排出量を約3t削減できます。2014年はSK200H-9の生産・販売体制を強化し、20tクラスにおけるハイブリッドショベルの比率を2013年の2.5%から6.8%まで引き上げました。コベルコ建機グループでは省エネ・二酸化炭素排出量削減に寄与する製品の拡大に努めています。	燃費とともに作業効率を向上 「低燃費のコベルコ」のイメージをさらに確固たるものにするため、今後も低燃費システムの開発に努めていきます。また、燃料消費量の少ない機械だけでなく、作業効率を高めるためのアシスト機能の開発を進めることで、工期の短縮や燃料効率の良い作業の支援をします。工事全体での燃料の使用量・二酸化炭素排出量を減少させることで地球温暖化を防止できるほか、お客さまのランニングコスト低減などのメリットを生み出せるような機械の開発を進めます。
 森林資源の保全 ⇒ 環境保全活動(P12)	日本の林業の発展と、さらなる環境負荷の低減へ 戦後の拡大造林が収穫期を迎えると同時に、就労者の高齢化と人手不足、国産材の競争力低下といった厳しい状況にある林業分野において、コベルコ建機グループでは全国各地のお客さまの多様なニーズに応えられるよう、林業アタッチメントメーカーとの協力のもと、林業専用ベースマシンの開発を進めてきました。ラインナップの幅も拡大し、国産材の競争力アップに寄与しています。また、林業展へ出展し最新の林業機械を多くの人に見ていただく機会を設けるとともに、林業分野のさまざまな情報を伝える森林セミナーを開催することで、コベルコ建機グループの林業分野の事業を広くPRする取り組みも行っています。	幅広い作業へ細やかに対応する エネルギー源の多様化促進に伴い再生可能エネルギーとしてのバイオマスへの注目度アップや、間伐材などの有効利用、大雨による山地災害の防止など、さまざまな視点から森林の機能が改めて評価されています。適切な森林保全・整備が課題となっている今、林業に必要な作業内容はますます多様化が進行。それぞれの作業内容において個別のニーズに対応できるよう、用途を限定せず多目的に使用できる林業機械の開発を進めていきます。
 グローバル交流 ⇒ 社会・地域活動(P13) ⇒ ステークホルダーとの関わり(P15)	事業拡大に伴い、海外にも広がるCSR活動 コベルコ建機グループのCSR活動は、事業所周辺の清掃など、社員が気軽に行えることから始まりました。活動するうちに、地域貢献やステークホルダーとの交流といった地域に根ざした活動へと進化。地道に継続することで社員のCSR活動に対する意識も少しずつ変わり、近年では海外の拠点地域へと活動の範囲が広がっています。活動の種類、内容も拡大していて、2014年度は、主に中国にてステークホルダーの方々だけでなく、小さな子どもたちや大学生と地球環境の大切さについて一緒に考えたり、意見を交換するなどさまざまな交流を行いました。	世界各地で、CSR活動の輪を広げる コベルコ建機グループのCSR活動は事業を行う地域で活動することを基本としています。事業拠点がある日本やアジアの地域で行ってきた活動は今後も継続し、一昨年に再進出した欧米エリアでもCSR活動を進めて、世界中にコベルコ建機グループのCSR活動の輪を広げていきます。また、地域ごとに培った経験やノウハウをグループ内で共有し、より多くの社員がCSR活動に参加できるようにすることで、地域のニーズにあった活動を進めていきます。
 子どもの教育支援 ⇒ 社会・地域活動(P13)	ものづくりを担う企業として、学びの場を提供 コベルコ建機グループは、子どもたちへの教育支援にさまざまな形で取り組んでいます。以前より継続して行っている中学生レスキューロボットチャレンジでは、災害救助への関心を高めると同時に、中学生の柔軟な発想による新しいアイデアが生まれることを期待しています。また、子どもたちに、建設機械やものづくりをはじめ、理科全般に興味を持ってもらおうと、ゲームや実験・体験を通じて学べるイベントや出張教室などを実施しています。保育園や小学校を訪問し、ショベルの試乗体験や交通安全教室、ダンボールでつくったクローラーでの対抗戦、地球儀を使った水の授業などを行い、楽しみながら学んでもらいました。	子どもの教育を通じ地域社会を考える これまで、たくさんの保育園や小学校を訪問し、一人でも多くの子どもたちに学ぶことの楽しさを感じてもらえるよう活動を進めてきました。今後も社会貢献の一環として、この活動を継続して取り組んでいきたいと思っています。また、社員にとっても、地域で支える子育て・教育の場に触れることで、地域社会を考える良いきっかけになっています。社員教育としても重要であると考え、さらに充実させた活動を進めていきたいと思っています。



ハイブリッドショベル(SK200H)稼働現場 展示会の様子



森林・林業・環境機械展示実演会 コベルコ森林セミナー



近隣幼稚園への訪問学習(中国) 中国CSR委員会 集合写真

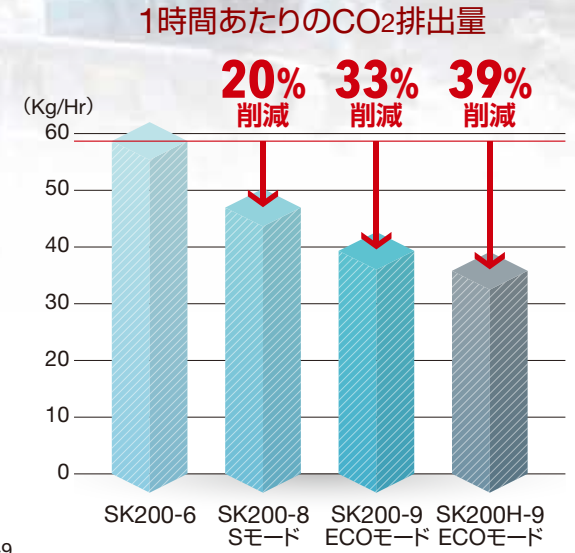


中学生レスキューロボットチャレンジ 小学校への訪問学習

時代をリードする環境性能

コベルコ建機グループは設立から15年、常に先陣を切って、より高い環境性能を追い求めてきました。低燃費・低騒音など、人や環境にやさしいものづくりに自信と誇りを持って、これからもチャレンジし続けます。

低燃費に向けた油圧ショベル開発のあゆみ



環境にやさしい建設機械を目指し続けて

1999年、神戸製鋼所の建設機械部門が独立し、さらに販売会社である神鋼コベルコ建機と、ショベルメーカーの油谷重工を統合して、製販一体となった「コベルコ建機株式会社」が設立された。

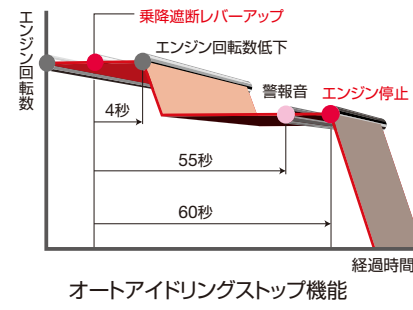
コベルコ建機株式会社は設立当初から環境への配慮を意識した製品開発を行ってきた。特に油圧ショベルについては、時代に先駆けて燃料消費量の削減に取り組んできた。1時間稼働させるだけで、数十リットルの燃料を消費する油圧ショベルにとって、ほんの数%の削減量だとしても、二酸化炭素排出量の削減効果は非常に大きくなる。

動力系統と油圧系統の両面から徹底的に低燃費化を追求した結果、2006年に販売開始した20tクラスの油圧ショベルSK200-8は、1999年の会社設立当初に販売していた同クラスのSK200-6と比べ

て20%の燃費削減を実現した。また、2013年より販売を開始した最新の排ガス規制対応モデルSK200-9は、SK200-6と比べ33%もの燃費の改善に成功している。

「どのようにして、少ない燃料で動かすか」という開発に加えて、「どのようにすれば、燃料を使わないか」という新機能の開発も進められていた。2003年

より6t以上の油圧ショベルに標準搭載(※1)した燃費削減のための新機能がオートアイドリングストップ機能である。油圧ショベルが現場において、無稼働(アイ



ドリング)状態になっている割合は、作業全体の約25%(※2)にもなる。このアイドリング中に消費される無駄なエネルギーに着目し、無稼働時の燃料消費量の削減を目指した。キャブから人が降りるときに操作する乗降遮断レバーが上がると(人が乗っていない状態)、その60秒後(作動時間は変更可能)に自動的にエンジンが停止し、アイドリング中の無駄な燃料消費を抑えることができる。実機調査では、最大20%の燃料消費量削減を達成している。2014年12月時点で、約5万台の販売実績がある本機能は、油圧ショベル本体の低燃費化と合わせることで、さらなる低燃費作業を可能とした。オートアイドリングストップ機能は、省エネ性能・環境性能が認められ、国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS」に登録され、多くの現場で活用されている。

環境にやさしい次世代の建設機械として期待されるのが、ハイブリッドショベルである。2006年春、フランスで開催された展示会に世

界初のハイブリッドショベルSK70Hを出展し、2010年に当時の同クラスの通常機と比較して約40%の燃費を改善した8tクラスハイブリッドショベルSK80H-2を販売開始した。その低燃費性能は非常に高い関心を集め、同時に、一番需要の多い20tクラスのハイブリッドショベルを望む声が高まり、2012年に業界初のオフロード法2011年規制をクリアした20tクラスハイブリッドショベルSK200H-9を販売開始した。SK200H-9はSK200-6と比較して39%もの燃料消費量を削減し、年間で23t(※3)もの二酸化炭素を削減できる。これは自動車が年間に排出する二酸化炭素排出量の10台分に相当し、二酸化炭素排出量削減に寄与する「低燃費のコベルコ」を象徴する機械となっている。今後もコベルコ建機株式会社は低燃費技術にさらなる磨きをかけ、低炭素社会の実現に向けて開発に取り組む続ける。

(※1)一部の特殊仕様機を除く
(※2)当社調べ
(※3)年間1,000時間稼働とし当社独自の燃費計測基準を基に算出

新技術を開発し 低炭素社会へ貢献

上田 浩司
コベルコ建機(株) 開発部 油圧要素系開発グループ



市場に「低燃費のコベルコ」を印象づけたSK200-8は、徹底的にエネルギーロスの低減を図りました。この開発には、効果予測・検証を可能とするツールとして、解析モデルによる評価技術を活用しました。SK200H-9では、旋回時のブレーキエネルギーを回収し、アシストに利用することでエンジンの負荷低減を行いました。さまざまなエネルギーに対する再生制御技術を高度に発展させて実現させた開発です。

次期モデルでも新たな技術を駆使し、低炭素社会の実現に向けて貢献できるよう、さらなる進化を約束します。

現場環境を変えた極低騒音技術「iNDR」

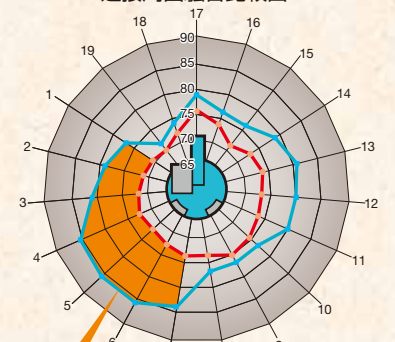
工事現場で大音量を伴って稼働する建設機械。大きな力を必要とする油圧ショベルには高出力の大型エンジンが搭載されるため、エンジン音は工事現場の騒音のひつつになっていました。

コベルコ建機グループでは、2001年に油圧ショベルの低騒音化を実現するプロジェクトを立ち上げました。掲げたスローガンは「極低騒音*」。目標は従来機が発生させるエンジン騒音の10dB低減です。プロジェクトの着手から6年に及ぶ開発期間をかけ、2007年6月に販売開始となったSK225SRおよびSK235SR-2には、従来の油圧ショベルにはない画期的な機能が盛り込まれました。それがコベル

コ独自のエンジン冷却システム「iNDR」です。エンジンルームを閉構造とし、さらにダクト構造を取り入れた通気の仕組みにすることで、エンジンから発生する騒音の外部漏れを抑制し、通常の機械にはない大幅なエンジン騒音の低減を実現しました。2008年1月には12t、13tクラス、4月には7tクラスの油圧ショベルにもiNDR搭載モデルを展開。また、2013～2014年には、2.8t～5tクラスのミニショベルまでラインナップを拡大しました。

iNDRの搭載により、機械側面1mの距離でのエンジン騒音は、非搭載機と比較して最大10dBの低減。搭載モデルは、住宅地や狭い現場、夜間作業など騒音が気になる現場の周辺環境改善に役立っています。また現場の作業員の方からは「作業員同士の合

図が届きやすく、コミュニケーションが取りやすくなった」「エンジン音が気にならず長時間の作業でも疲れなくなった」などの評価をいただいています。これからもコベルコ建機グループは現場環境改善に役立つ製品を開発し続けます。



2014年度 企業活動・CSR活動ハイライト

コベルコ建機グループでは、CSR活動ポリシーに基づき、事業活動とCSR活動を相互に深く関連づけて取り組みを進めています。2014年度も事業展開に沿ったさまざまな活動を展開しました。



Highlight 1

e-Learning Awards 2014フォーラム実行委員会／
フジサンケイビジネスアイ主催

「第11回日本e-Learning大賞」 ベストプラクティス賞受賞



全世界共通のサービスエンジニア教育ツール としてのeラーニング活用に高い評価

パソコンやインターネットなどを活用した教育システムeラーニングの最新事例の紹介や議論をするe-Learning Awards 2014フォーラムが、2014年11月に開催されました。そのなかで実施された「第11回日本e-Learning大賞」で、コベルコ建機株式会社カスタマーサポート部が展開しているサービスエンジニア教育のeラーニングが、ベストプラクティス賞を受賞しました。

製品サポートを充実させることは、製品の機能・性能を正しく知ってもらうためにも、顧客満足度アップのためにも欠かせないことです。特に近年のグローバル化により、世界各国での製品サポート体制の構築はますます重要になってきており、製品サポート業務に従事しているサービスエンジニアの人材育成は企業にとって共通の課題でした。それを解決するためのひとつの方法を提示できたことが受賞につながりました。

特に評価されたポイントは2つです。まず、インターネットを活用した多言語対応システムを導入し、全世界に同時に情報配信できるようしたこと。もうひとつは学習プログラムをパッケージ化し、共通指標による評価を導入したこと。これにより、全世界共通の学習教材を使いながらも、各国・各エリアの特性に合った学習プログラム

を採用した研修体系を確立でき、より実践的で有効な人材教育の手段となりました。

現在では日本をはじめ、中国、インド、インドネシア、オーストラリアなど、世界20か国以上に展開しているeラーニングによる教育システム。今後も全世界で信頼され満足いただける人材を創出していきます。



ベストプラクティス賞 賞状

Highlight 2

一般社団法人 広島県発明協会 「理科の出前授業」の表彰



理科やものづくりの楽しさを伝える 継続的な取り組みを評価

広島事業所では、「子どもの理科離れ、製造業離れに歯止めをかけ、広島を技術者の畑とし、地域の活性化を図りたい」の活動方針のもと、広島市内の小学校で「理科の出前授業」を2010年から続けています。2014年6月、広島県発明協会の設立90周年記念式典において、継続的な取り組みが評価され表彰されました。

「理科の出前授業」は、CSRメンバーが小学校へ出向き、油圧ショベルのミニチュアとアタッチメントの模型を用いて「てんびん」と「てこ」についての授業を行います。油圧ショベルのバケットに分銅を載せ、ショベルの姿勢によって倒れる重さの違いを実験し「てんびん」の原理を説明、長さが変わるアタッチメントの模型では、長さ

の変化で感じる力の差を実験してもらい「てこ」の原理を説明します。実験を通して学んでもらいながら、子どもたちの質問にも丁寧に答え、理解が深まるよう工夫しています。今後も未来の技術者の育成につながる活動を続けていきます。



「理科の出前授業」表彰式の様子

たくさんの子どもたちに 理科を好きになってほしい

VOICE

中原 涼太
コベルコ建機(株) 開発部 装備系設計グループ

「子どもの理科離れに歯止めをかける」をテーマに理科の出前授業に取り組んでいます。今の勉強が、将来や社会のいろいろなところで役立っているということを知ってほしいという気持ちで授業しました。子どもは元気いっぱい、なかなか思うように授業を進めることができず、先生の偉大さを感じましたが、これからも、より多くの子どもたちに理科に興味を持ってもらえるように、活動を継続していきたいです。

Highlight 3

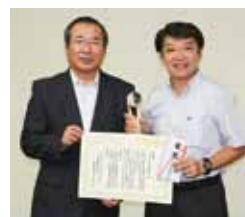
2014年度CSR賞 コベルコ中国CSR委員会



成都の現地法人4社が一体となって 地域に貢献する美化活動

コベルコ中国CSR委員会では、ゴミ拾い活動を2009年より継続的に実施しています。成都近郊の観光地や公園を中心に展開し、2014年夏季のゴミ拾い活動は、成都温江区国色天香(公園)で行いました。

毎回、成都の現地法人4社(CKCMG/CKCM/CKCML/CKCL(クレーン))の従業員に加え、必ず参加する幹部もいますが、全員が同じユニホームを着用して、グループ各社が一体となり協力しあって活動を展開しています。「みんなで取り組もう環境保全」をスローガンに進めながら、少しずつ活動の輪を大きくしていくことを目指しています。



「2014年度CSR賞」授与式の様子

活動が社内に浸透。 環境保護の意識が高くなった

VOICE

邹 凯
成都神鋼工程机械(集团)有限公司 CKCMG

毎年継続的に実施しているゴミ拾い活動を通じて、「私たちの行動が小さな環境保全につながっている」と実感しています。休日に行うため、最初は参加率が低かったものの、徐々に社内に浸透。今では大幅に参加者が増加し、従業員一人ひとりに環境保護の意識が芽生え、環境の大切さについて考えるきっかけとなっています。各社の従業員の力を一致団結させ、地道な活動を引き続き推進していきたいと思っています。

Highlight 4

五日市工場で開催 第12回サービス技能大会



世界各地から精鋭たちが集結! 中国現地法人が初の総合優勝達成

2014年11月15日、昨年に続き広島五日市工場において、カスタマーサービス部主催「第12回コベルコ建機株式会社サービス技能大会」が開催されました。「止めるな進化! 見せるぞ真価! 技術で感動を与えるコベルコサービス!」をスローガンに、世界10か国から各地の予選大会を勝ち抜いた8チーム40名の精鋭が参加しました。今年は、新たにオーストラリア現地法人(KCMA)が参加、また日本国内では、これまでレンタル会社連合の一員として参加していたトーヨスギウエ株式会社が、単独チームを結成して参戦。年を追うごとに盛り上がりつつあります。

競技内容も回を重ねるごとに工夫され、予防保全や部品交換提案なども大きなテーマとして定着し、より現実に即した課題が設定され、各地区から選抜されたサービスマンたちが白熱した競技を繰り広げました。

競技の結果は、中国現地法人2社の合同チームCKCM・Gが総合優勝の栄冠に輝き、優勝トロフィーが初めて海外チームの手に渡りました。

サービス技能大会は、サービス全体のレベルアップという成果を生むだけでなく、本大会のようなグループ内での競争・研鑽が、必ず各地域の市場の中でのコベルコ建機グループの競争力を上げてくれることは間違いないでしょう。



競技風景

「サービス技能大会」表彰式の様子

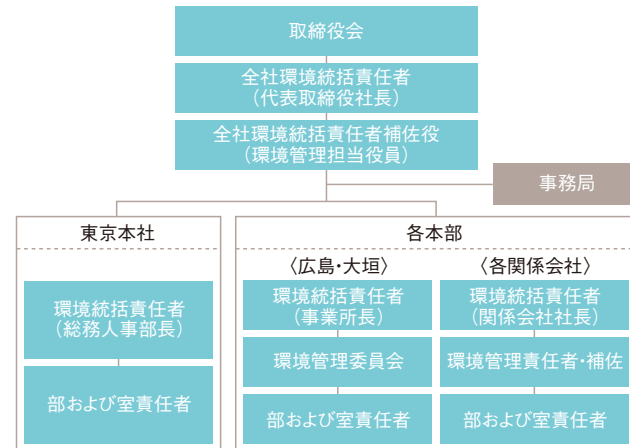
環境を守る

製品の性能に加え、製造過程においても、環境にやさしいものづくりを行っています。
また、社内組織や体制を整備し、事業活動全体を通じて環境保護に努めています。

環境マネジメント

環境管理体制

コベルコ建機グループでは、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。また、全社の環境管理を統括する環境管理事務局を設置することにより、環境管理体制の強化と全社的な環境マネジメントを実施しています。



環境管理規程

コベルコ建機グループでは、環境関連法令の遵守はもとより、環境保全が企業の社会的責務であるとの自覚に基づいた上で、環境に十分配慮した事業活動を行っています。環境管理規程を定め基本的事項と本社部門および各事業所のそれぞれの果たすべき役割を明確にし、規程を基に、グループ全体での環境活動を推進しています。

環境調査や研修により工場や周辺の環境保全を図る

北村 功太郎
コベルコ建機(株)営業本部
カスタマーサポート部グローバルサービス企画グループ



環境問題に対する社会的意識が高まる中、環境管理事務局では販社工場への環境調査を実施し、管理規程に基づく指導を行うことで工場環境の充実や周辺地域の環境保全に取り組んでいます。また、工場設備の管理基準を定めた「コベルコ建機 設備運用マニュアル」を各拠点に配布。設備管理者へ定期的な研修を行い、環境問題に対する意識向上にも努めています。2015年度はグループレンタル会社にも同様の調査を行い、コベルコ建機グループ全体のさらなる環境保全に取り組んでいきます。



環境コンプライアンスの遵守徹底

コベルコ建機グループでは環境管理の視点から、法的要求事項について正しい知識を身につけ、責任と権限が明確な体制を構築して従業員各人が当事者意識を持って環境コンプライアンス遵守を徹底できるよう、さまざまな取り組みを実施しています。

① 環境・防災法令コンプライアンス教育

2014年9月、五田市工場で、神戸製鋼所 環境防災部の講師による環境・防災法令コンプライアンス教育を実施しました。環境管理面での法令要求事項遵守の必要性や関係法令の概要、法令遵守に不可欠な管理運用体制について、関係部署から説明を受け、事例演習も含む実践的な教育の機会になりました。

② 環境管理eラーニング

東日本大震災による原発問題を機に環境問題の重要性は増し、五田市工場への移転で立地環境も変化するという状況のもとで2014年5月、3年ぶり2回目となる環境管理eラーニングを実施しました。コベルコ建機グループの環境管理の取り組みについて情報を共有し、基本方針に関わる具体的な活動内容を広くグループ従業員に周知しました。また、建設機械業界全体の重要課題であるオフロード法規制強化への対応や、五田市移転以降に重要性がより高まった水質管理などについても知識を深めました。

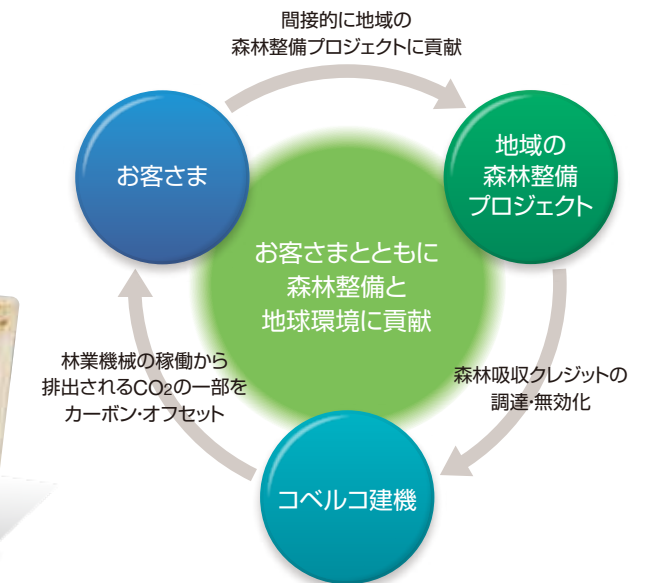
③ 販売会社・整備工場の環境確認調査

コベルコ建機環境事務局は、コベルコ建機グループ販売会社サービス部による環境自主調査の結果を踏まえて、改善が必要な拠点を半期ごとに選定し、環境確認調査を実施しています。雨水排水経路（油水分離槽含む）、油脂類保管状況、産廃処理状況などの項目を中心に状況確認を行い、適宜、改善指導を行っています。

コベルコの「カーボン・オフセット」プログラム

地球温暖化防止や森林整備へのさらなる貢献のため、2013年10月より林業機械購入のお客さま向けに、コベルコ独自の「カーボン・オフセット」プログラムを用意しています。「カーボン・オフセット」とは、機械が排出する温室効果ガスのうち、どうしても削減できない量の一部を、ほかの場所で削減された温室効果ガスで埋め合わせ（オフセット）する仕組みをいいます。

コベルコの「カーボン・オフセット」プログラムは環境省の認証する森林吸収クレジットだけを活用し、費用は全額、日本国内の森林整備に還元。クレジット発行者やプロジェクトを選べるので、地元など希望の地域の森林整備に貢献できます。2014年は40件のプログラム活用があり、年間156tの二酸化炭素排出量削減に貢献しました。



環境数値 事業活動に伴う排出量

コベルコ建機グループは、開発・生産・物流・販売の事業サイクルに合わせ、さまざまな環境保全活動を展開しています。例えば、広島事業所では、電力使用量の抑制などを目的に省エネ分科会を立ち上げ、必要に応じて対策を講じています。また、低燃費ショベルの開発は10年以上前から着目し、各シリーズにおいて着実に成果をあげてきました。ここでは、2014年度の国内生産拠点における環境数値を記載しています。

コベルコ建機(株)広島事業所

主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	乾燥炉	230	9.8
ばいじん	乾燥炉	0.2	0.003
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	該当なし	—
SS	該当なし	—
油分	35	10.8
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	109,000	0	0	0	0	31,000	塗装
トルエン	7,400	0	0	0	0	9,600	塗装
エチルベンゼン	47,400	0	0	0	0	3,600	塗装

■大気データ
※規制値:大気汚染防止法、関係例、ダイオキシン類対策特別措置法
※単位: NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³
※規制値は、対象施設ごとに決められています。
※表に記載されていない以下の項目はすべて定数量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
※有害物質: 六価クロム、鉛、水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン
■化学物質
※単位: kg

コベルコ建機(株)大垣事業所

主要製品:建設機械及び部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	2,460	420
SS	40	2.00
油分	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	25,399	0	0	0	0	8,495	塗装
トルエン	12,875	0	0	0	0	4,385	塗装
エチルベンゼン	20,499	0	0	0	0	6,883	塗装

※単位: COD-SS-油分はmg/l、ダイオキシン類はpg-TEQ/l
※ND:分析定量限界値以下(検出されない)
※表に記載されていない以下の項目はすべて定数量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
※有害物質: pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、塩素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン
■化学物質
※単位: kg

信頼を築く

地域密着型の支援活動を実施し、地域と支えあいながら共存共栄を目指しています。地元社会や住民の方との信頼を深め、地域に根ざした企業として役割を果たしていきます。

活動理念

コベルコ建機グループはグローバル企業としてさまざまな地域で事業を展開する中で、広く社会と共存することを目指しています。事業拠点のある広島市で2014年8月に起こった大雨による土砂災害では、神戸製鋼グループは、広島市に対し総額1,000万円相当（うち、コベルコ建機株式会社は500万円相当）の支援を行いました。

社会貢献活動では、事業を行う地域において従業員自身が直接活動に参加することを基本とし、活動を通して、その地域の特色や近隣住民の思いを知り得ています。また、コベルコ建機グループがその地域・社会にどのように映っているか、どのような共存の方法があるのかを自ら能動的に考える機会になっています。

2014年度も地域に親しまれながら、ともに成長することを大切に考えて、地域振興イベントへの積極的な参加や子どもの教育支援、清掃美化活動、植林活動など多様な活動に取り組んできました。これからも従業員自身の活動で、より良い豊かな社会づくりへ貢献したいと考えています。

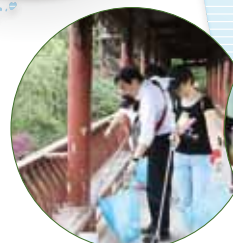
継続的活動

地域社会とともに発展していけるよう、多くの活動は従業員の発案を基に実施しています。活動を推進し、維持するために「コベルコ建機CSR基金」を設立。継続的なサポート体制を整えています。

詳しい活動内容は、WEBをご覧ください。

コベルコ建機 CSR 検索

<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>



成都観光地での清掃活動（中国）



西南交通大学との交流、支援（中国）



近隣幼稚園への訪問学習（中国）



フィリピン孤児院の運営・活動維持の支援（フィリピン）



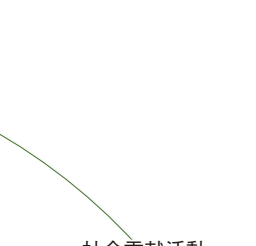
大垣HIRO学園との交流（岐阜）



大垣十萬石まつり（岐阜）



西の里小学校の訪問学習（北海道）



社会貢献活動しながわ（東京）



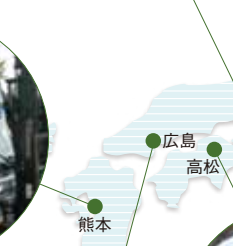
六甲山ECOWAYの森（兵庫／神戸製鋼）



建設ふれあいまつり（兵庫）



職場見学会（熊本）



事務所周辺の清掃活動（香川、奈良）



近隣保育園への訪問学習（千葉）



近隣保育園への訪問学習（神奈川）



しながわ夢さん橋（東京）



近隣保育園への訪問学習（神奈川）

コベルコ建機グループへの広がり

点から線へ。線から面へ。活動が広がり、未来へつながる社会への貢献

コベルコ建機グループのCSR活動は、年々その輪が広がっています。コツコツ続けることで徐々に参加者が増え、活動が広がっていった地域で新たに始まった活動、他地域の活動の情報を共有することで広がった活動など、さまざまなケースがあります。各地の活動が、点と点が結ばれるようにつながっていき、大きな面となり、グループ全体のCSR活動になりつつあります。

コベルコ建機グループには、販社や教習所、レンタル会社、現地

法人など、さまざまな関係会社があり、会社の業態は異なるものの、CSR活動の輪は着実に広がっています。当初、関係会社の拠点のひとつで始まった事務所周辺の美化活動は、今では複数の拠点で自ら活動を行うようになりました。さらに、各地で開催される地元イベントへの参加や小学校などとの交流も活発に行われ、地域の方々からの信頼をいただけるように努めています。

コベルコ建機グループはCSRポリシーとして、①人道主義的であること ②身の丈に応じた活動であること ③事業を展開している地域であること の3つを掲げています。関係会社が現在行っているCSR活動は、まさにこの①②③を踏まえたグループ方針に沿った活動となっています。こうした活動がさらに広がることで、社内外の好循環を生み出し、より良い社会の建設に貢献していきます。



各地域の活動報告書

CSR活動を通じて仲間を思いやる気持ちも育った

吉田 勇二
トーヨースギウエ（株）



「強くないやかで美しい会社：トーヨースギウエ株式会社」の実現を目指し、その柱のひとつとしてCSR活動を全社に上げて間もなく3年になります。今では皆、やらされ感を脱し、自主的、積極的、かつ個性的に、それぞれ身の丈でできる活動を実施継続しています。おかげさまで、社員の周りへの気づき感覚が格段に良くなったこと、各拠点の結束力や仲間を思う気持ちが強固になったことで、すこぶる業績も伸びてきたのが、CSR活動の不思議な効力だと思っています。

絆を育てる

人材の育成や支援に注力し、業界全体の繁栄を図っています。
また、働きやすい環境や制度を整えて、
ともに働く仲間たちがより豊かな人生を送れるようサポートしています。

お客さま・関係企業との調和

コミュニケーションを通じ 互いの信頼と理解を深める

多彩なコミュニケーションの場を開設し、関係企業や取引各社、
お客さまとの情報共有に努め、ともに発展を目指しています。信頼感
と相互理解を深めることで、連携の強化につなげています。

ディーラーミーティング

世界各国でコベルコ建機グループの製品を販売いただいている
ディーラーとの交流および、さらなる連携強化を目的に、国内外で
ディーラーミーティングを定期的に実施しています。欧米エリアでは、
2015年1月に北米、2月に欧州で開催、世界的にも重要な、これらの
市場エリアで強固たるブランド構築を図るため、多方面にわたる意
見交換を行いました。市場再参入から2年間の活動を振り返り、現
状を整理した上で、次のステージへ向けた目標達成のために、参加
者全員が決意を新たにした貴重な機会となりました。これからも、真
のグローバルブランドとしてお客さまやディーラーの期待を上回る価
値の創造に努めていきます。



北米現地法人新事務所前集合写真



欧州現地法人ディーラーミーティング 懇親会の様子



欧州現地法人
ディーラーミーティング
集合写真



北米現地法人
ディーラーミーティングの
様子

生産連絡会

部品の供給元である取引先企業をはじめ、協力企業が一堂に
会する生産連絡会を年2回、開催しています。毎回多くの企業に出
席いただき、今年度は160社380名が参加。会社設立15周年の節
目にあたり、これまでの歩みを振り返りながら、各事業領域の需要動
向や販売見通しの説明を行いました。また今後のさらなる協力につ
いて依頼するとともに、相互理解を深めました。懇親会は、コベルコ建
機グループの経営陣との
親睦の場でもあり、率直な
意見をいただくよい機会にも
なっています。今後も協力企
業との信頼を高め、互いの
企業価値向上と発展を図
っていきます。



生産連絡会の様子

資源リサイクル会・森林セミナー

国内で資源リサイクルや林業に従事しているお客さまに向けて、
業界の最新情報を提供するセミナーを定期開催しています。今年
度の資源リサイクル会では、「俯瞰する日本のスクラップ&ビルト」を
テーマに、セミナーや最新鋭の資源リサイクル商品の紹介を行いま
した。森林セミナーでは、「木質バイオマス発電の展望と課題」と題
した講演会とともに、最新林業機械の紹介をしました。両セミナーは、
コベルコ建機グループからの情報発信の場として、事業のヒントとな
る情報を提供しています。そ
の後の懇親会も毎年好評
で、参加者同士でも親睦を
深め、意見交換や情報交
換をする姿が多く見られ、業
界全体の活性化にもつな
がっています。



資源リサイクル会の様子

職場づくり・人づくり

各種制度を充実させ、快適で安心な労働を目指す

ワーク・ライフ・バランスを推進し、従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりをはじめ、さまざまなサポートを進めています。事業
所内における安全衛生活動や育児・介護に関する支援制度の整備、多彩な社員研修の実施など、職種や地域の特性、従業員のライフステー
ジに合わせた施策を展開。社員一人ひとりの声を大切に、日々着実に社内環境の向上に努めています。

女性社員の活躍推進

コベルコ建機株式会社では、女性がもっと活躍の場を広げてい
けるようポジティブアクションに取り組んでいます。その一環として、女
性社員に対し初の試みとなる「キャリアデザインセッション」を開催。
積極的に仕事を楽しむ姿勢について、また自身のキャリアや働きがい
についての意見交換を行いました。今後も女性が個々の能力を
存分に発揮できるよう、積極的に取り組んでいきます。



キャリアデザインセッション 集合写真

五日市工場感謝祭

五日市工場では、安全で気持ちよく働ける職場づくりを目指すとし
ても、職場を従業員の家族や地域の方々にも知っていただくため
「五日市工場感謝祭」を毎年開催しています。3回目となった今年
度も、工場内をめぐるスタンプラリーや従業員による音楽ライブ、部署
対抗駅伝、ショベルの試乗体験や写真撮影会など多彩な企画を
実施。総勢約2,500名が参加し大盛況のイベントとなりました。



第3回五日市感謝祭 集合写真

社内研修制度の充実

段階的な研修で一人ひとりの能力向上を図る

コベルコ建機グループでは、各社員段階や職種に
応じた「ありがたい姿」を設定し、その実現に向けてOJT
とOFF-JT（研修など）を組み合わせた総合的な人材
育成体系の構築に取り組んでいます。OJTによる人材
強化では特に、新入社員の職場への定着や早期の
戦力化を目的として、組立作業をはじめとした複数部
門の仕事を早い時期に経験できる実務体験型の教育
プログラムなどを実施しています。

また、入社5日目までの若手社員は毎年、集合研
修を行い、社会人としての基礎力を段階的に習得で
きるよう支援しています。その後も中堅社員から管理
職、ライン長、ビジネスリーダーまでの各階層において
必要な知識・スキル・行動を学ぶ機会を設け、研修を
通じて社員一人ひとりの能力向上を図るとともに、部門
を超えたコミュニケーションの活性化により、会社として
のチームワークも高めています。

今後も、社員が日々「やりがい」を持って仕事に取り
組めるよう、制度のさらなる充実を目指します。



研修風景

■新階層別研修体系

経営職 ～役員	経営幹部研修 経営、戦略、ブランド、リスク 他		
管理職	ライン長研修PART1・2(組織マネジメント) 参与補昇格者研修(ビジネスモデル・座禅) 参事アドバンス研修(事業計画立案・リスク認識と対応) 参事3年目研修(財務分析・事業計画立案) 新任管理職研修(マネジメント・キャッシュフロー)	OJT研修	
中堅社員	マネジメント基礎研修(マネジメント基礎) 指導職研修(ステークホルダーマネジメント) 課題形成研修(課題解決)	eラーニング研修	語学研修
若手～ 中堅社員	入社5年目研修(リーダーシップ、ティーチング、コーチング) 入社4年目研修(問題解決)		
若手社員	入社3年目研修(プレゼンテーション) 入社2年目研修(文章化・計画化)		基礎知識 学習の 充実
新入社員	新入社員フォローアップ研修(ストレス耐性) 新入社員研修(ビジネス基本、資格取得等)		

コンプライアンス／コーポレートガバナンス

企業の社会的な役割と責任を果たすとともに、企業価値を最大限に高めるため、グループ全体でのガバナンス体制を整え、倫理・法令遵守の徹底を図っています。

コンプライアンスへの取り組み

コベルコ建機グループは、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていることを認識し、企業経営上の法令遵守はもちろんのこと、コンプライアンス活動を継続して推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすよう努めています。

コンプライアンス5原則

- ①ルール違反・不正をしない。
- ②ルール違反・不正があった場合には、隠さない。
- ③ルール違反・不正を発見した場合には、直ちにコンプライアンス責任者に報告する。
- ④ルール違反・不正について報告した者は決して不利益を受けない。
- ⑤ルール違反・不正に対し、即時に是正・防止策を実行し、的確・迅速に公表する。

コンプライアンスを常に高く意識し、違反や不正を発生させないことが最も重要と考えています。万が一発生した場合でも、迅速に対応することで、その影響を最小化することができます。コベルコ建機グループの行動指針は「シンプル・スピード・オープン」。この行動指針に沿った活動とコンプライアンス5原則で、問題を発生させない、または、潜在化している問題を顕在化させない体制を整えています。

コンプライアンス委員会

コベルコ建機グループでは、企業活動における倫理・法令遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関として、コベルコ建機グループのコンプライアンス委員会を設置しています。より公正で透明性の高い組織にするため、2名の社外委員を含めています。

コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、コーポレートガバナンス体制を構築し、事業を展開する国や地域での法令遵守はもとより、社会常識を逸脱することがないよう、コンプライアンスの徹底を図っています。また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための

環境管理委員会

コベルコ建機では、各分科会より構成される環境管理委員会を設置し、五日市・大垣工場をはじめとする主要生産拠点での、ISO14001環境工場標準・マニュアルに沿った環境管理活動および改善活動を推進しています。毎月1回委員会を開催し、各分科会の進捗・問題点および対策について議論し、さらなる環境改善を促進しています。

危機管理演習

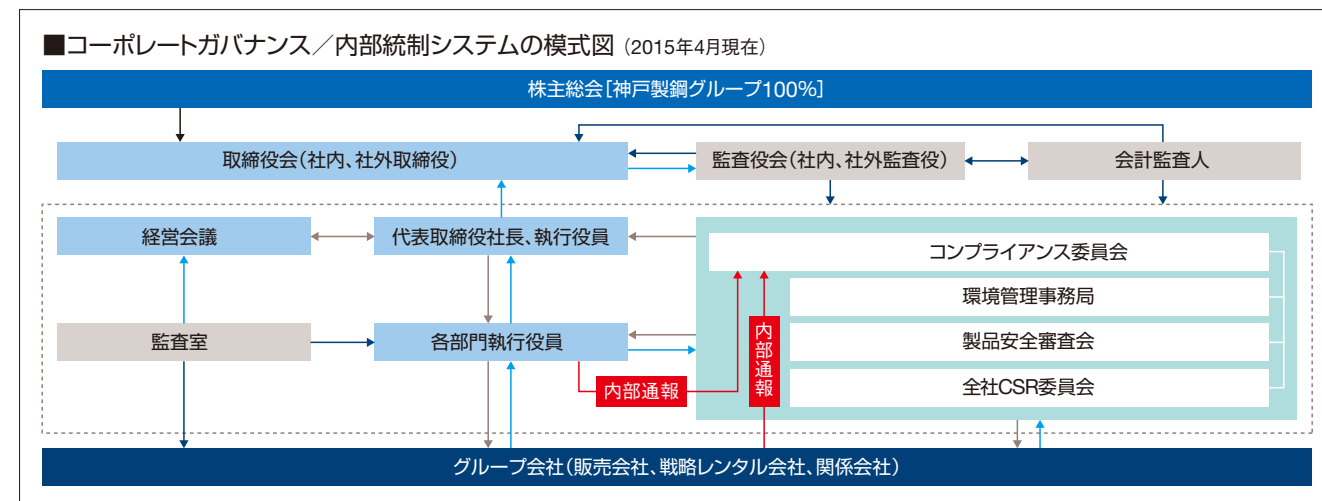
継続的な活動で危機管理能力の向上を図る

2006年から毎年、危機管理演習を実施しています。今回で15回目となるこの演習は、グループ各社やコベルコレーン株式会社と共同で行うなど、徐々に演習の内容や対象範囲を広げつつ、具体的な事故想定のもとで演習に取り組んでいます。繰り返し実施することで緊急時の基本動作を体得し、万一の場合に備えるとともに、危機に対する意識を高めています。

今後とも内容をより充実させながら継続し、従業員ならびに企業全体の危機管理能力のさらなる向上を図ります。



仕組みとして、「内部通報システム」を設け、法令・企業倫理・行動規準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることに努めています。



社員メッセージ

CSR活動には多くの社員が関わっています。その中心ににいるのがCSR委員です。活動をリードし、また、陰からサポートし、コベルコ建機グループのCSR活動を支えています。

連帯感や一体感を 感じてほしい

総務人事部 東京総務グループ
アシスタントマネージャー
浅見 武文

私たちは、「しながわ夢さん橋」「社会貢献活動しながわ」「お花いっぱい大崎」など地域の活動に積極的に参加し、業務上は接点がない方々と接することで、当社のCSR活動を知ってもらうことができました。また、東京CSR委員会メンバーと一体となり、力を合わせて活動ができたことで達成感を感じています。今後は、地元の子どもたちに喜んでもらえる活動や、困っている人々の役に立つような活動を考えていきたいです。また、コベルコの知名度アップに役立つ活動にも力を入れたいです。いろいろな人たちがCSR活動に参加して連帯感を感じてもらえるような雰囲気づくりを目指しています。

地域の人とつながる きっかけに

西日本コベルコ建機（株）
中部支社 東海中央営業所
青木 優

CSR活動で印象に残っているのは、秋の大展示会でのゲームコーナーやデモンストレーションです。子どもが機械を見て楽しそうにしている姿を見たり、普段は関わりの少ないコベルコ関係者と接することができたり、やりがいを感じます。今後はさらに地域の人から喜ばれる活動を増やしていきたいと思っています。現在は、「やごと感車祭」にユーザーからのご依頼で機械を出展し、「知多産業道路クリーン作戦」では近隣企業とともに道路の清掃をしています。こういった活動は、地域の人や企業と関わりを持てるチャンスであり、また、地域貢献につながっているのかな…と感じられるときでもあります。

編集後記

喜びの輪をみんなで共有したい

全社CSR委員長 中田 雅彦

昨年からコベルコ建機グループのCSR活動に、戦略レンタル会社の方々が参加してくれている。各地を訪問した際、地道な活動を展開されていることを知り感銘を受けた。コツコツ続く小さな活動にも光を当て、できる限り皆さんに伝え、喜びの輪を共有したい。きっと海外でも人知れず活動が行われているに違いない。

CSRの広がり、世界へ！

CSR推進グループ 長堀 禎之

コベルコ建機株式会社が1999年に誕生してから15年、今回の報告書では当社が15年間でどれだけ製品の環境性能を改善してきたかを特集しました。世界中に環境性能のすぐれたコベルコの油圧ショベルが広がっているように、CSR活動もより多くの地域に広がっていけるように活動していきたいと思っています。

写真から伝わる活動の意義

CSR推進グループ 五日市 真紀

各地域の活動写真を見ていると、とてもいい表情の写真がたくさんありました。この報告書に載せられないのが非常に残念ですが、笑顔はもちろん、真剣に学ぶ姿や楽しそうな雰囲気を見て、もっと多くの人がこのCSR活動に携わっていただけたらと感じました。今後も継続して活動に取り組んでいきたいと思っています。

世界の人々に コベルコを伝えたい

コベルコ建機エンジニアリング（株）
資料制作部
鄭 玉実

「広島佐伯区民まつり」への出展や、「中学生レスキューロボットチャレンジ」を開催し、なかなか触れ合う機会がない地域の方々と交流することで、会社を少しでも知ってもらえたこと、地域に溶け込んだ活動ができたことが良かったです。現在行っている恒例の活動に加え、新たな活動ができればいいと思います。例えば、地域で暮らす留学生などの外国人に、日本の文化や風習を伝える活動をしたいです。このような活動を通じて、世界の人たちにコベルコを知ってもらえたらステキだと思います。今後はたくさんの社員と力を合わせて、より充実したCSR活動を行っていきたいです。

やれば分かる おもしろさ！

部品事業推進部
部品センター
山下 武司

部品センター周辺の清掃活動では、毎回、部品センターのほぼ全ての人が参加してくれて、きれいになるだけでなく、仲間との連帯感を感じられることが、次へのやる気につながっています。また、森林整備活動では緑の中で汗を流すのが清々しく、貴重な体験ができました。社内報にCSR活動の写真が掲載されるようになりましたが、たくさんの人に活動を知ってもらうためにも、活動している人のモチベーションのためにも、とても効果があると思います。今後は海水浴場や海岸の清掃活動など、地域に貢献できて、かつ、知名度を上げられるような活動を行えるといいと思います。